

自力か他力

事務所の経営理念を四年前（NO2号）「三つのかけ算」で掲載。本年決算は黒字58ポイントで（全国平均は27ポイント）前年比の13ポイント増。これは経営者の努力の結果です。時代の流れに沿い、静かに考えを軌道修正されておいでいるのです。

苦境にもかかわらず、経営者の目の耀きが違います。眞

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年6月1日(水) NO. 197

地域から明るい未来を作ろう

剣さが内助を含め伝わってくるものです。流れに翻弄されているわけではありません。改善は「危機感」のないところに、絶対あり得ないもの。先を読まず手も打たない、念仏や何も根拠のない希望的観測を一刻も早く捨てることです。

競争は資本主義の常で、絶対に避けられません。苦境は外部要因が原因でも結果でもありません。事業の存続自体は「自己改革」無くしてあり得ない。会社は何年も前、昨年からどう変わったのでしょうか殆ど変わっていないのが常です。

これは経営者と社員に明確な燃えるような目標が無いのです。時代は「頭」の変革だ。会社の「自然死」も立派な仕



創刊4年目の事務所便り

事？ですが、変われなければ存続できないのです。ゆっく

最近感激した本ーイカ神経・

コンピュータ研究で有名な、松本元(03年没)著、岩波書店(税抜き千二百円)、初版が15年前。詳しくは本書を、多くを得るはずだ。

大脳が損傷しても快・不快の情動判断は行える。即ち愛は脳を活性化させる。脳は意欲で働くのである。我々は人から受け入れられ、人からわかつてもらうことで意欲が

があり、知が働くように作られている。会話が生き生きと成り立つのは、単に事実や考えのみが交流されているときではなく、感情にしっかりと焦点が当て

りと自然に「死」へ向かっていきます。そもそも日本の会社は、何百年も存続していません。親方「日の丸」は明確に存亡の危機です。他力依存のコバンザメの生き方の結末は、この時代に適合していないとは思えないの

られているときであろう。実は、人は感情を受けてもらいたいために会話をし情報をやりとりするので、と言っても過言でない。人を理解するということは、この人の発した言葉を理解するだけでなく、その言葉を発する基板となる感情を理解することなのである。

「愛は脳を活性化する」

困難や苦しみに出会ったとき、人は自分でそれに立ち向かい、その解決の道を自分で探し出す努力の中で、そのための脳の回路を形成する。

われわれは成長していく。こういうとき、困難や苦しみか

でしょうか。財務省依存の卑しい金融機関、実質官僚支配の企業すべてが、見事なまで閉塞状況に落ちていないでしょうか。新たな中小零細企業の復活が構築できなければ、世界で生き延びられません。

ら逃げないで立ち向かう勇氣は、愛によつてのみ与えられるだろう。愛は人が成長する源であり、心の活性化エネルギーなのである。

脳にとって最大の価値、そして活性化のもと、関係欲求の充足であり、それは愛という概念で表現されるものなのである。人は夢を実現するために生きるよう作られている。

この本は、第三章から読みやすい。特に母親となる女性に是非、読んで頂きたい一冊です。

